

6 米

(1) 国際的な米需給の概要

○2009/10年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、中国、インドネシア、タイで増加が見込まれるものの、インド、バングラデシュ、フィリピン、ベトナムで減少することから、世界の生産量は減産が見込まれている。

需要面では、インドで減少するものの、中国、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、フィリピンで消費量が拡大することから世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国、インドネシア、タイ等で増加するものの、インド、バングラデシュ、フィリピン、ベトナムで減少することから世界全体では前年度より11.0百万トン減少（▲2.5%）し、436.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.6百万トン上方修正されており、国別には、インドネシアで上方修正、タイ、フィリピンで下方修正された。

【消費量】

消費量は、インドで減少が見込まれるものの、中国、インドネシア、ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、フィリピンで増加し、世界全体では前年度より2.2百万トン増加（0.5%）し、437.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.6百万トン上方修正されており、国別には、インドネシア、ミャンマーで上方修正、バングラデシュで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.5百万トン増加（8.6%）し、31.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではベトナムで輸出量の減少が、タイ、パキスタン、中国、エジプト、米国で輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、イラク、EU-27で輸入量の増加が、マレーシア、ナイジェリアで輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体では0.1百万トン上方修正され、国別には、輸出について米国、エジプトで上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、中国、インドネシア、タイ、ベトナム等で積み増しされるものの、インド、フィリピン、日本で減少が見込まれ、世界全体では前年度より0.8百万トン減少（▲0.9%）し、92.5百万トンと見込まれ、期末在庫率は21.2%となる。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.8百万トン上方修正され、国別には、インドネシア、タイで上方修正、フィリピンで下方修正された。

表－1 世界の米需給

(単位: 百万精米トン)

年度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		対前年度 増減率(%)
			予測値	前月予測 からの変更	
生産量	434.4	447.3	436.3	1.6	▲2.5
中国	130.2	134.3	137.0	-	2.0
インド	96.7	99.2	84.5	-	▲14.8
インドネシア	37.0	38.3	38.8	1.8	1.3
バングラデシュ	28.8	31.0	30.0	-	▲3.2
ベトナム	24.4	24.4	24.3	-	▲0.4
タイ	19.8	19.9	20.4	▲0.1	2.8
フィリピン	10.5	10.8	10.2	▲0.1	▲5.1
消費量	428.5	434.9	437.1	0.6	0.5
中国	127.5	129.0	133.5	-	3.5
インド	90.5	93.2	86.7	-	▲6.9
インドネシア	36.4	37.1	37.6	0.2	1.4
バングラデシュ	30.7	31.0	31.1	▲0.3	0.3
ベトナム	19.4	19.0	19.2	-	0.8
フィリピン	13.5	13.7	13.8	-	1.0
ミャンマー	10.2	9.6	9.9	0.1	3.1
貿易量	31.2	28.6	31.1	0.1	8.6
(輸出)					
タイ	10.0	8.6	10.0	-	16.7
ベトナム	4.7	6.0	5.5	-	▲7.6
インド	4.7	2.0	2.0	-	0.0
パキスタン	3.0	3.0	3.8	-	26.7
米国	3.4	3.0	3.2	0.1	8.0
中国	1.0	0.8	1.5	-	97.4
エジプト	0.8	0.3	0.6	0.2	100.0
(輸入)					
フィリピン	2.6	2.6	2.6	-	0.0
イラン	1.5	1.7	1.7	-	0.0
ナイジェリア	1.8	1.7	1.6	-	▲5.9
サウジアラビア	1.0	1.4	1.4	-	0.7
EU-27	1.6	1.3	1.4	-	2.3
イラク	1.0	1.0	1.1	-	10.0
マレーシア	0.8	1.0	0.8	-	▲18.6
期末在庫量	81.0	93.3	92.5	1.8	▲0.9
中国	38.0	42.9	45.3	0.0	5.5
インド	13.0	17.0	13.0	-	▲23.5
インドネシア	5.6	7.1	8.5	1.5	20.3
タイ	2.7	4.8	5.9	0.7	23.0
フィリピン	4.4	4.1	3.1	▲0.1	▲23.9
日本	2.6	2.7	2.6	-	▲2.9
ベトナム	2.0	2.0	2.1	-	7.7
期末在庫率	18.9%	21.5%	21.2%	0.4	▲0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 中国

【需給状況】

中国の生産量は、単収と収穫面積が増加すると見込まれていることから、前年度より2.7百万トン増加（2.0%）し、137.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より4.5百万トン増加（3.5%）し、133.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（97.4%）し1.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（6.1%）し、0.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.4百万トン増加（5.5%）し、45.3百万トンとなり、期末在庫率も33.5%（0.5ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月予測からの改訂は、2008/09年度の輸出量がわずかに下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量がわずかに上方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米の収穫は概ね終了した。

今年度は、政府の価格支持政策等により作付面積が増加するとともに、多くの産地で良好な天候に恵まれたため、史上最高の単収となった。

北部地域のジャポニカ米は、干ばつに見舞われたが、灌漑により被害は少なかった。

また、中部及び南部地域のインディカ米は、台風や洪水の被害も少なく豊作であった。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課していたが、輸出税については2009年7月1日に撤廃された。また、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

なお、中国政府は2009年度の作付けを推進させるために500万トンの備蓄を計画したが、2009年7月下旬から放出を開始した。2010年2月中旬現在、概ね2割の落札があり、そのうちジャポニカ米については概ね7割の落札率となっている。また、その予定数量に関しては、需給のバランスを保つため、省別に現状に合わせて決められている。

世界の生産量シェア	1位（2009/10年度31.4%）
輸出量シェア	6位（2009/10年度 4.8%）

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	130.2	134.3	137.0 (135.1)	-	2.0
消費量	127.5	129.0	133.5 (128.0)	-	3.5
輸出量	1.0	0.8	1.5 (1.5)	-	97.4
輸入量	0.3	0.3	0.4 (0.9)	-	6.1
期末在庫量	38.0	42.9	45.3 (70.3)	0.0	5.5
期末在庫率	29.6%	33.1%	33.5% (54.3%)	0.0	0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.92	29.24	29.68 (…)	-	1.5
単収(もみt/ha)	6.43	6.56	6.59 (…)	-	0.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

イ インド

【需給状況】

インドの生産量は、モンスーンの降雨の時期の遅れと降水量不足、9月下旬の豪雨のため、前年度より14.7百万トン減少（▲14.8%）し、84.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より6.5百万トン減少（▲6.9%）し、86.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並の2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、米国農務省によるとここ数年わずかな量であったが、2009/10年度は、生産量の減少により0.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は4.0百万トン減少（▲23.5%）し、13.0百万トンとなり、期末在庫率も14.7%（3.2ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年6月から7月にかけて、モンスーンの降雨の時期が遅れ、降水量が不足したことが、カリフ米（雨季米）の播種と移植にかなりの悪影響を及ぼすとともに、9月下旬の豪雨がカリフ米の米作に被害を与えた。

現在、カリフ米の収穫がほぼ終了し、ラビ期の米の作付けが行われている。

〔インド政府発表〕

インド政府によると、1月現在、カリフ米の生産量は、2008/09年度の84.5百万トンから2009/10年度には69.45百万トンに減少すると予想されている。

また、2月12日現在、ラビ期の米の作付面積は、昨年同期の3.3百万ヘクタールに対し、3.2百万ヘクタールであった。

ラビ期の米の生産量が平年並みになるとしても、2009/10年度の米の合計生産量は、15百万トンから20百万トンの減少が見込まれている。

なお、2008/09年度の米の生産量は、98.4百万トンで、そのうちカリフ米が84.5百万トン、ラビ米が13.9百万トンであった。

また、米の政府調達量は2010年2月12日現在、2008/09年度同期の22.2百万トンに対し、21.2百万トンとなっている。これは、主にパンジャブ州とハリヤナ州で灌漑により生産量が増加し、政府調達が順調に進んでいるものの、アンドラプラディッシュ州、タミルナドゥ州や西ベンガル州で政府調達量が減少したためである。

【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続しているが、非公式に特定の国に一部輸出されていた。なお、種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が2008年9月に解除された。

また、2009年1月19日に米の輸出税を撤廃したが、その後、2009年12月7日には有機非バスマティ米について、1万トンの輸出許可がされた。

一方、輸入については、2009年10月14日に精米の輸入関税（70%）を2010年9月30日までの期限付きで撤廃した。

なお、2009年11月9日に3万トンの入札を実施したが、応札価格が高く不成立であった。

また、2009年11月20日の関係閣僚会議で、不足分を在庫分で補えることから、商工相は当面の米輸入の必要はないと述べた。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度19.4%）
輸出量シェア 5位（2009/10年度 6.4%））

表－3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値 (FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	96.7	99.2	84.5 (85.0)	-	▲ 14.8
消費量	90.5	93.2	86.7 (92.8)	-	▲ 6.9
輸出量	4.7	2.0	2.0 (2.0)	-	0.0
輸入量	0.0	0.0	0.2 (0.1)	-	…
期末在庫量	13.0	17.0	13.0 (11.5)	-	▲ 23.5
期末在庫率	13.7%	17.9%	14.7% (12.1%)	-	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.77	44.00	38.80 (…)	-	▲ 11.8
単収(もみt/ha)	3.31	3.38	3.27 (…)	-	▲ 3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

ウ インドネシア

【需給状況】

インドネシアの生産量は、収穫面積の減少が見込まれるものの、単収が増加することから前年度より0.5百万トン増加（1.3%）し、38.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（1.4%）し、37.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.4百万トン増加（20.3%）し、8.5百万トンとなり、期末在庫率も22.6%（3.5ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月からの改訂は、生産量が1.8百万トン、消費量が0.2百万トン、輸出量がわずかに上方修正され、輸入量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ジャワ島の一部地域では乾燥天候により作付時期が遅れたものの、エルニーニョ等の影響が和らぎ、灌漑用の貯水レベルも通常レベルになったことや収量の高い品種の作付けが増えたことにより単収が増加し、生産量が前月の予想より1.8百万トン増加して史上最高の38.8百万トンに達すると見込まれている。

なお、引き続き生育期の天候には注視が必要である。

【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、2008年4月11日から輸出を禁止していたが、2008年の米の生産が豊作であったことを受け、政府は2009年4～6月に最大10万トンの高品質米の輸出を行うことを決定し、11社に輸出を許可した。

しかし、国内需給のひっ迫懸念から2009年7月に再度輸出を禁止した。

〔世界の生産量シェア 3位（2009/10年度 8.9%）〕

表－4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万精米トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	37.0	38.3	38.8 (40.2)	1.8	1.3
消費量	36.4	37.1	37.6 (39.5)	0.2	1.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	0.0	100.0
輸入量	0.4	0.3	0.3 (0.1)	▲ 0.1	0.0
期末在庫量	5.6	7.1	8.5 (4.4)	1.5	20.3
期末在庫率	15.4%	19.0%	22.6% (11.1%)	4.0	3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	12.17	12.00 (…)	-	▲ 1.4
単収(もみt/ha)	4.82	4.88	5.01 (…)	0.23	2.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

エ タイ

【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大と単収の増加が見込まれていることから、前年度より0.5百万トン増加（2.8%）し、20.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.1%）し、9.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.4百万トン増加（16.7%）し、10.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加（23.0%）し、5.9百万トンとなり、期末在庫率も30.0%（3.5ポイント増）まで上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、2007/08年度が生産量が0.5百万トン上方修正、2008/09年度が生産量が0.3百万トン上方修正されたことにより、2009/10年度の期首在庫量が0.8百万トン上方修正、生産量が0.1百万トン、消費量がわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量が0.7百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

農業協同組合省米穀局が2月3日に公表したところによると、2009/10年度雨季作米の作付けは、9.2百万ヘクタールとみられ、98%が収穫済みとなっている。

乾季作米は、1.4百万ヘクタール作付けされ、生育状況は、53%が播種期、32%が分けつ期、7%が出穂期となっている。目標作付面積は、1.5百万ヘクタールである。

また、同米穀局が2月7日に公表したところによると、1月20日現在、ウタイターニー県、ピサヌローク県等の0.13百万ヘクタールでトビイロウンカによる虫害にあっている。

【貿易情報等】

2009年7月にタイとベトナムの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。

協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

また、タイは、フィリピンとの間に米の貿易に関する2つの協定の締結に向け調整中。

1. タイ政府がフィリピン政府に年間80万トン強の米を輸出できるとするもので、このうち37万トンについてはフィリピンの輸入関税が課されないもの。
2. 両国の貿易会社間での契約で、タイからフィリピンに年間およそ50万トンの米を輸出できるとするもの。

世界の生産量シェア 6位（2009/10年度 4.7%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度32.2%）

表－5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	19.8	19.9	20.4 (21.1)	▲ 0.1	2.8
消費量	9.6	9.5	9.6 (11.9)	▲ 0.0	1.1
輸出量	10.0	8.6	10.0 (9.5)	-	16.7
輸入量	0.0	0.3	0.3 (0.3)	-	0.0
期末在庫量	2.7	4.8	5.9 (5.3)	0.7	23.0
期末在庫率	13.8%	26.5%	30.0% (24.8%)	3.5	3.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.83	10.80	10.90 (…)	-	0.9
単収(もみt/ha)	2.77	2.78	2.84 (…)	▲ 0.01	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

オ ベトナム

【需給状況】

ベトナムの生産量は、作付面積が増加するものの、単収が昨年度より減少すると見込まれることから前年度より0.1百万トン減少（▲0.4%）し、24.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.2百万トン増加し（0.8%）、19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.5百万トン減少（▲7.6%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度並の0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は2.1百万トンとなり、期末在庫率も8.5%（0.7ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

1月1日現在、春冬作については、昨年同期に比べ3.2%多い1.9百万ヘクタールで作付けが終了した。

地域別では、北部の省の作付面積は、0.1百万ヘクタールで昨年同期の72.1%、南部の省の作付面積は、1.8百万ヘクタールで同105.1%となっている。

また、秋稲単期作は、南部の地域で収穫作業が続けられた。南部地域全体では、作付面積の83.2%にあたる0.6百万ヘクタールで収穫が終了したが、昨年同期の95%にとどまっている。

このうちメコンデルタ地域では作付面積の70%に相当する0.3百万ヘクタールで収穫が終了した。好天に恵まれたこと、価格が比較的高値を維持していること等から、ロンアン省、キンザン省等では前期よりも収穫量が大幅に増えた地域が多い。

【貿易情報等】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、2008年6月13日からこれを解除した。また、2008年8月15日からは、一定基準の輸出価格を超えた場合に輸出税が賦課されていたが、2008年12月19日に課税が停止された。

なお、2009年7月にベトナムとタイの米輸出団体は、米貿易での協力体制を強め、世界市場での交渉力の強化を目的とした合意書を取り交わした模様。協力内容は、主に生産状況や生産技術情報の交換、輸出条件の共有化等とされている。

世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 5.6%）
輸出量シェア 2位（2009/10年度17.7%）

表－6 ベトナムの米需給（市場年度：1月～翌年12月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10			
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	24.4	24.4	24.3 (26.0)	-	▲ 0.4	
消費量	19.4	19.0	19.2 (20.7)	-	0.8	
輸出量	4.7	6.0	5.5 (6.3)	-	▲ 7.6	
輸入量	0.3	0.5	0.5 (0.5)	-	0.0	
期末在庫量	2.0	2.0	2.1 (3.4)	-	7.7	
期末在庫率	8.4%	7.8%	8.5% (12.6%)	-	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.41	7.32	7.33 (…)	-	0.1	
単収(もみt/ha)	4.98	5.05	5.02 (…)	-	▲ 0.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

カ フィリピン

【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の減少とともに台風被害等による単収の減少が見込まれていることから、前年度より0.6百万トン減少（▲5.1%）し、10.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（1.0%）し、13.8百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並の2.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.0百万トン減少（▲23.9%）し、3.1百万トンとなり、期末在庫率も22.7%（7.4ポイント減）と低下する見込みである。なお、前月からの改訂は、生産量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量は0.1百万トン減少した。

【生育進捗状況及び作柄】

2009年の米（もみ）生産量は、台風16号、17号の影響で引き起こされた単収の低下により、2008年の生産量よりも5.1%減少した。

【貿易情報等】

台風の影響で米の生産に被害が出たこと等から、フィリピンは11月から12月にかけて4回の米輸入入札を実施し、ベトナム産を中心に1.8百万トンの米を落札した。

また、2010年2月、フィリピン政府は、民間企業に最大20万トンの米の輸入を許可した。

なお、フィリピンは、タイとの間に米の貿易に関する2つの協定の締結に向け調整中。

1. フィリピン政府は、タイ政府から年間80万トン強の米を輸入できるとするもので、このうち37万トンについては輸入関税が課されない。
2. 両国の貿易会社間での契約で、タイからフィリピンに対し年間およそ50万トンの米を輸出できるとするもの。

（ 世界の生産量シェア 7位（2009/10年度 2.3%）
輸入量シェア 1位（2009/10年度 8.4%） ）

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	10.5	10.8	10.2 (10.9)	▲ 0.1	▲ 5.1
消 費 量	13.5	13.7	13.8 (13.5)	-	1.0
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…
輸 入 量	2.6	2.6	2.6 (2.3)	-	0.0
期末在庫量	4.4	4.1	3.1 (2.5)	▲ 0.1	▲ 23.9
期末在庫率	32.7%	30.2%	22.7% (…)	▲ 0.7	▲ 7.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.35	4.53	4.45 (…)	-	▲ 1.8
単収(もみt/ha)	3.83	3.77	3.64 (…)	▲ 0.03	▲ 3.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (December 2009)」

キ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、作付面積及び単収が増加したため、前年度より0.5百万トン増加（7.9%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加し、4.2百万トン（1.7%）となる見込みである。

輸出量は、0.2百万トン増加（8.0%）し、3.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.1百万トン増加（9.8%）し、0.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.3百万トン増加（30.5%）し、1.3百万トンとなり、期末在庫率も17.2%（3.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月からの改訂は、消費量がわずかに上方修正、輸出量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

収穫は、12月に全州にて概ね完了した。

2009/10年度については、長粒種は単収が増加したものの、作付面積が減少したため、生産量は前年より低下した。一方、中短粒種は単収が減少したものの、作付面積が増加したため、生産量は増加（33%増）し、約3.1百万トンになると推定されている。

2009/10年産全体では、収穫面積は4%増加し、単収は、7.94トン/ヘクタールとなった。この単収は、2007/08年度に次いで史上2番目の単収となった。

〔世界の輸出品シェア 4位（2009/10年度 10.4%）〕

表－8 米国の米需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.3	6.5	7.0 (7.0)	-	7.9
消費量	4.1	4.1	4.2 (4.2)	0.0	1.7
輸出量	3.4	3.0	3.2 (3.1)	0.1	8.0
輸入量	0.8	0.6	0.7 (0.7)	-	9.8
期末在庫量	0.9	1.0	1.3 (1.4)	▲ 0.1	30.5
期末在庫率	12.7%	13.7%	17.2% (19.2%)	▲ 1.6	3.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.11	1.20	1.26 (…)	-	5.0
単収(もみt/ha)	8.09	7.68	7.94 (…)	-	3.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」、
FAO 「Food Outlook (December 2009)」